

基地とともに128年

佐世保の近代化の歴史は、明治22（1889）年の海軍鎮守府開庁をきっかけに始まります。明治16年に人口3700人の村だった佐世保は鎮守府の設置後、急速に人口が増加。明治35年には約5万人になり、町制を飛び越え、佐世保市が誕生しました。人口の増加を見据え、中心市街地も軍港のまちとして都市計画が行われ、アーケードを含む碁盤目状の道路整備などが行われました。

戦後は、市内に所在した旧海軍施設や用地が旧軍港市転換法の制定によって、市や民間企業に無償または減額して譲渡されるなど特別な措置が図られ、これまで学校、公園、水道をはじめとする公共施設や市の産業、経済を支える民間施設などに姿を変えながら、佐世保のまちづくりや発展に大きく貢献してきました。

本市は自衛隊や米海軍と共存しながら、港を生かした平和産業港湾都市として、また西海国立公園九十九島を有する自然豊かな観光都市として歩んできました。海上自衛隊や米海軍の艦艇、民間の造船施設、そして大型のクルーズ客船一度に見ることができの佐世保ならではのあり、基地と共に歩んだ歴史を感じることでできる風景でもあります。

港のすみ分け

港を中心に発展してきた佐世保ですが、米海軍、海上自衛隊、民間企業などの施設が混在しており、岸壁の競合などさまざまな課題もあります。市や民間が実際に使用できるのは、三浦・前畑地区の一

部など半分程度で、港区内についても約8割が米海軍に提供されている制限水域となっています。このような状況を受け、本市は民間、自衛隊、米海軍がそれぞれの機能を効果的に発揮し、地域産業の振興や市の発展につなげるために、新返還6項目を基調とした「港のすみ分け」に長年取り組んでいます。

前畑弾薬庫の移転・返還の促進と前畑崎辺道路の整備

基地政策における最重要課題でもある「前畑弾薬庫の移転・返還」については、ご理解をいただき、条件を付してご協力いただいている関係地域・団体の皆さまの苦渋の決断に報いるためにも早期の実現を目指しています。昨年には「前畑弾薬庫跡地利用構想検討有識者会議」を設置し、7月に開催された第6回会議では、旧海軍時代からの建造物や手付かずで残る自然景観を生かしながら「観光振興」や「産業振興」などに活用していく方向性を盛り込んだ報告書案がまとめられました。今年度末をめどに、市としての構想を策定することを目指しています。

崎辺地区においては、水陸両用車部隊の配置計画や海上自衛隊による利活用構想が示されており（下図参照）、今後、通行車両の増加が見込まれる中、大黒・天神地区の既存道路の交通環境改善を図るため、長年国に要望してきた市中心部と崎辺地区を直結する幹線道路（前畑崎辺道路）の整備に今年度から着手しました。今年度は測量・調査・設計を実施し、平成35年度の工事完了を目標としています。

特集

基地のあるまち 佐世保

明治22年の海軍鎮守府の設置以来、基地とともに発展してきた佐世保のまち。海上・陸上自衛隊、米海軍が所在し、これまで基地との共存共生のまちづくりを進めてきました。今回の特集では、基地と共に歩んできた佐世保の歴史を振り返りながら、基地を巡る課題や経済波及効果、基地のあるまち佐世保を感じることでできる催しなどについてお知らせします。

観光、まちづくりを生かす

本市においては、自衛隊と商店街が連携したG1グランプリや米海軍基地と地元団体が取り組むアメリカカンファレンスティールなどが開催されており、基地との信頼関係を築きながら、市民の皆さんと一緒に佐世保の文化を発信してきました。最近では、旧海軍施設を中心とした文化財が日本遺産「鎮守府」として認定され、佐世保港を海から眺める軍港クルーズや旧海軍施設などを巡るツアーも好評です。

また、今年度からは、米海軍基地があり、外国人が多く住む佐世保の特徴を生かしたプロジェクト「英語が話せるまち佐世保」もスタート。官民連携で佐世保の魅力を創出することとしています。

基地との共存共生

近年では、国を守るということだけでなく、東日本大震災や熊本地震などの大規模災害が発生した際の人命救助や、その後の被災地復興においても自衛隊の活動がクローズアップされています。また、最近の国際情勢を見ても、私たちの生命や財産、平和を守る自衛隊への期待は今後もますます大きくなっていくものと考えられます。こうしたことを踏まえながら、本市は今後も日本の安全保障に貢献される海上自衛隊や陸上自衛隊、米海軍佐世保基地の業務が遂行しやすい環境づくりに努力するとともに、できる限りの負担軽減と地域振興を図りながら、基地があるという佐世保の特色を生かした共存共生のまちづくりを進めていきます。

佐世保にある基地の概要（平成29年4月1日時点）



水陸機動団の新編（30年3月予定）

水陸機動団とは、離島などへの侵攻があった場合に、速やかに上陸・奪還・確保するための本格的な水陸両用作戦能力を整備するために新編される島しょ防衛専門部隊。水陸機動団の本部や中核となる上陸部隊の水陸機動連隊が相浦駐屯地に、また、現在崎辺地区の西側に整備中の崎辺分屯地に水陸両用車を運用する部隊が配置される予定となっている

※陸上自衛隊の隊員数は平成29年度末に約2,000人となる予定です。

海上自衛隊佐世保地方隊

日本海、東シナ海、太平洋にまたがる日本の南西方面における広大な海域の防衛・警備を行う。また、護衛艦などの艦船に対する後方支援を任務とする
隊員数＝約5,000人

陸上自衛隊相浦駐屯地

九州・沖縄の離島防衛の専門部隊（西部方面普通科連隊）が配置。平成27年3月に水陸機動準備隊が、また水陸機動教育隊がことし3月に新たに発足し、平成30年3月の水陸機動団の新編に向けた準備が進んでいる
隊員数＝約1,350人

米海軍佐世保基地

揚陸艦や掃海艇が配備されており、弾薬や燃料を艦船に補給する拠点になっているほか、修理や乗組員の支援も行っている
隊員数＝約3,400人
日本人従業員数＝1,450人



【左】熊本地震発生時に市民から寄せられた支援物資をヘリコプターに搬入する海上自衛隊の皆さん【右上】市総合防災訓練に参加する陸上自衛隊の皆さん【右下】市内の海岸で清掃ボランティアを行う米海軍佐世保基地の皆さん（写真は米海軍佐世保基地提供）

基地と「地域経済」を考える

基地と地域経済は深い関わりを持ちながら、今日に至っています。佐世保商工会議所では、市内企業と基地との取引などを活性化させ、地域の振興につなげるため、平成23年から基地支援係を設置。各種要望活動のほか、ホームページを通じた情報提供や企業向けのセミナーなどを開催しています。今回は、佐世保商工会議所・基地支援特別委員会の飯田満治委員長と、商工会議所副会頭で、地元調達の促進や自衛隊の再就職支援などに取り組む佐世保防衛経済クラブの馬部謙一会長に経済波及効果などについて話を伺いました。

働く隊員、そして家族の存在

現在、本市には約6300人の自衛隊員に加え、約5600人の米軍関係者(家族などを含む)が生活しています。来年3月には相浦・崎辺の両地区に水陸機動団が新編され、隊員数は約2千人になる予定です。

商工会議所では、本年、水陸機動団の新編による経済波及効果を独自に調査。隊員や家族が増えることによる消費の増など、年間の経済波及効果を約63億円、建設投資による波及効果を約161億円と予想しています。飯田委員長は「どの自治体も

企業誘致や定住人口を増やすための取り組みを行っています。千人単位で増えることはめったにありません。働く若年層、そしてその家族が増えるということを見ると、自衛隊の存在はとても大きい」と話します。

定住人口を増やすため、退職自衛官や中途退職者の再就職支援にも取り組むこととしており、「新しい自衛隊員が入って、退職した人が出て行く」と人口は増えません。54歳の人を雇うのはなかなか難しいですから、企業が望むこと、自衛隊が望むことをマッチングすることが大事だと感じています。まずは関係機関と連携した体制作りに取り組んで、雇用に対する市民の理解を深めていきたいですね」と抱負を述べました。

地域全体での相乗効果を目指す

佐世保商工会議所や佐世保防衛経済クラブでは、基地との友好的な関係を築くと同時に、海上自衛隊と陸上自衛隊に対し、地元発注の促進のための要望活動なども長年行ってきました。平成26年には、海上自衛隊佐世保地方総監部に、オープンカウンター方式が導入されたことで、地元発注の機会が大幅に増加しました。

「これまで新規で取引を始めた市内企業は数百社に上ります。オープンカウンター方式は市外企業も参加できますが、昨年度の発注金額は4億円を超えており、その7割以上を市内企業が受注しています。金額にして約3億円ですが、これまでなかったものが創出できたのはすごいことだと思います」と馬部会長。また、「自衛隊でこの方式を導入したのは海上自衛隊佐世保地方総監部が初めてだということもとてもうれしいこと。佐世保は自衛隊に対する理解度も高いですし、地域全体での相乗効果につなげていきたいですね」と話してくれました。

近年は、水陸機動団の整備のための発注が増えていることから、地元期待感もあるとのこと。「これまで取引のなかった企業も参入できるように、説明会を開催したり、情報を分かりやすく伝えたりして、市内企業が入りやすい仕組み作りを働き掛けていきたい」と馬部会長は意気込みを語りました。

佐世保の特性を生かして

最後に飯田委員長はこう話します。「全国に515ある商工会議所の中で、基地を支援するという立場を明確にしている係を設置しているのは佐世保だけ。私たちにとって、基地があるのは自然なことですし、これが佐世保のまちなりの特性だと思います。佐世保の将来のためには、国防で役に立ちながら、基地と共存共生していくことが必要なのではないでしょうか」(取材日：7月26日)

オープンカウンター方式

海上自衛隊佐世保地方総監部契約課の大石将也課長にオープンカウンター方式の仕組みや地域とのつながりなどについて話を伺いました。

競争性、公平性を高め 地元企業の受注しやすい環境を

オープンカウンター方式とは、予定価格が100万円以下の役務や160万円以下の物品など、少額、少数のものを調達するときに、従来のように特定の業者を指名せず、多くの事業所から見積りを提出してもらい、契約の相手方を決定するものです。



佐世保地方総監部では、競争性、公正性、透明性を確保しながら、どうすれば地元の中小企業の方にも参入していただけるのかということを考え、平成26年10月にオープンカウンター方式を導入しました。金額を大きくして一般競争入札になると大手の業者が強いです。少額、少数の発注にすることで地元企業も受注しやすい環境になりました。開始当時は年間約3億円の市場規模を見込んでいましたが、昨年度の発注額は4.8億円で、件数も約1,600件と増加しました。新規で参入する企業も多く、裾野が広がったという感触があります。

私たち海上自衛隊は、地元の方のご理解なしに活動することはできません。地元企業からの入札参加が増えるということは、活動について理解していただくことにもつながると感じています。また、熊本地震の際には、地元企業の皆さんとの密接なつながりがあったから、すぐに物品の調達などに協力いただけたという経緯もあります。海上自衛隊との取引は敷居が高いと壁を感じられるかもしれませんが、発注する内容は身近な電化製品や事務用品、レセプションで使う食材や日本酒など多種多様です。まだオープンカウンター方式についてご存知じゃない方もいらっしゃると思いますので、今後も引き続き情報発信をして、より多くの企業に入札に参加していただけたらと思っています。

(取材日：8月2日)

※オープンカウンター方式＝公示期間内に見積書をカウンターに置いていくことに由来した名称。

佐世保市の取り組み

防衛補助事業

「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」に基づき、本市では防衛施設周辺住民の負担軽減を図り、生活の安定と福祉の向上に寄与することを目的に防衛補助事業を実施しています。「民生安定施設の助成」(第8条)、「特定防衛施設周辺整備調整交付金」(第9条)を活用し、道路や公園などのインフラ整備、消防車両の購入などを実施しています。

事業補助額＝約11億9千万円(27年度決算額)

退職自衛官の再就職支援

本市では平成27年に「佐世保まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、国や関係機関、団体などと連携しながら、厳正な規律、豊富な経験と知識で即戦力となる退職自衛官の市内企業への再就職を促進することで、地域経済の活性化を図るとともに、定住人口の増加を目指しています。

発注金額の7割以上を 市内企業が受注しているのはすごいこと



佐世保防衛経済クラブ
馬部 謙一 会長



佐世保商工会議所 基地支援特別委員会
飯田 満治 委員長

私たちがとって基地があるのは自然なこと
これが佐世保のまちなりの特性だと思っ



くらま食堂の名物
「海軍カレー」



基地のあるまち佐世保を感じるイベント、体験ツアー

昨年4月に日本遺産に認定された鎮守府関連の施設をはじめ、基地のあるまちならではの観光資源が豊富にあるのも本市の魅力です。9月に開催されるアメリカンフェスティバルや市民の皆さんが気軽に参加できる催しなどについてお知らせします。

アメフェスで 佐世保らしさを感じてほしい

「アメリカンフェスティバル(以下アメフェス)」は、音楽ライブや日米チームのスポーツ対戦など、国籍を超えて楽しめる日米の交流イベント。米海軍基地と民間団体である佐世保青年会議所が協働で主催する、全国的にも珍しいイベントで、こしは9月16日、17日の両日、佐世保公園と基地内のニミッツパークで開催されます。

「アメフェスは米海軍基地が身近にあって、友好的な関係を築けている佐世保でしかない、佐世保の魅力が詰まったイベントだと思います」と話すのは、今年度実行委員長を務める指山立さん。アメフェスは、



アメリカンフェスティバル
実行委員長 指山 立さん

1985年から2002年まで18年続いた佐世保の夏恒例のイベント。同時多発テロの影響でいったんは中止となりましたが、当時を知る人や市民の皆さんから復活を求める声が強くなり、あつたといえます。

「2015年に復活したときには多くの人から懐かしかった、楽しかったという声を聞くことができました。今の実行委員会のメンバーは、子どものころからアメフェスに行っていた「佐世保らしさ」を感じて育ってきた世代。それを今の子どもたちにも感じてほしいですね」

実行委員会では、今回はじめて福岡でのPRを行い、市外からの集客にも力を入れています。

「アメフェスは食や文化、音楽の交流イベント。有名なアーティストのライブも無料で聴くことができます。市外の方にも発信して、たくさんの方たちに佐世保の雰囲気を楽しんでほしいと思います。佐世保に観光でまた来たい、移住してみたいと思ってもらえたらうれしいですね」と指山さん。「大人の方にももちろん楽しんでほしいですが、一番の目的は、私たちが昔そうだったように、地元の子どもたちがこの雰囲気を感じて、自分たちのまちを好きになってもらうこと。上の世代にしてもらったことを、次の世代にも伝えていきたい」と笑顔を見せました。(取材日:7月25日)

AMERICAN FESTIVAL 2017 in SASEBO (アメリカンフェスティバル)

子どもから大人まで、多くの人でにぎわうアメフェス。ピザやアメリカンステーキの出店もあり、アメリカの空気を感じることができます。

とき 9月16日(土)、17日(日)
ところ 佐世保公園、ニミッツパーク
※ニミッツパークへの入場には運転免許証などの顔写真付き身分証明書の提示が必要です。



◎実行委員会 ☎46-6868

海上自衛隊倉島一般公開



停泊中の艦艇を一般公開しています。艦艇への乗船や写真撮影もできます。

日時 土・日曜、祝日
※訓練等で中止になる場合がありますので、事前にHPをご覧ください。

場所 海上自衛隊倉島岸壁(千尺町)
※受付時に身分証明書が必要です。
◎海上自衛隊佐世保地方総監部広報係 ☎23-7111(内線 3336)

SASEBO 軍港クルーズ



港内にある造船所のドックやクレーン、自衛隊・米海軍の艦船などをガイドの案内を聞きながら海上から見学できます。

日時 毎週土・日曜、祝日
※11時30分頃出発。
※12月末~2月は冬期運休。

場所 佐世保港集合
料金 中学生以上2,000円、小学生以下1,000円
定員 64人
◎佐世保観光情報センター ☎22-6630

「海軍さんの散歩道」 港まち歩きツアー

普段は一般の立ち入りができない、海上自衛隊佐世保地方総監部敷地内の地下壕にある「防空指揮所」跡や護衛艦「くらま」艇内の食堂をイメージした「くらま食堂」など、市街地に残る海軍ゆかりの地を海上自衛隊OBが案内します。

日時 毎週金曜9時20分~13時
場所 市民文化ホール前集合
料金 2,400円(昼食、保険含む)
定員 20人(最少催行人数8人)
申込 3日前までに佐世保観光情報センターへ(このツアーに軍港クルーズ、艦艇見学をセットにしたバスツアーもあります)
◎佐世保観光情報センター ☎22-6630